

G★U★M★B★O

ロボットシステムの展開について 記者:藤田

最近、ロボットに関する多くの事柄が報道されています。今回は、その現状と当社の取り組みを紹介します。

実は、ロボット全体の明確な定義はありません。一般的には、「人の代わりに何らかの作業を自律的に行う装置もしくは機械」とされています。ただし、産業用ロボットに関しては、日本工業規格(JIS)において、「自動制御によるマニピュレーション機能または起動機能を持ち、各種の作業をプログラムによって実行できる、産業に使用される機械」(JIS B 0134)と定義されます。現在は、各種のロボットが開発され、実際に使用されています。

産業用ロボットでは、①製造業分野(溶接システム、塗装システム、組立システム等)、非製造業分野(農林業用ロボット、畜産ロボット)、②非産業用ロボットでは、生活分野(警備ロボット、掃除ロボット、多目的ロボット等)、医療・福祉分野(医療ロボット、福祉ロボット)、公共ロボット(災害対応ロボット、探査ロボット、宇宙ロボット等)などが代表的な例です。2012年は0.9兆円であった産業規模が、2025年には9.7兆円まで拡大するという予想もあります。



このような状況の中で、従来のロボットとは性格が異なる「協働ロボット」が登場しました。現在、主流である産業用ロボットは、安全を確保するために、ゲージ(柵)の中での使用が義務付けられ、関係する安全基準は大変厳格です。その一方、「協働ロボット」は、その名称のとおり、作業者の横に設置して作業を補助する役目を担います。その市場は一定の規模まで拡大すると予想します。

当社は、協働ロボットとして、もっとも評価が高いユニバーサル・ロボット(デンマーク製)を使用する設備・システムの事業化を計画しています。展示会にも積極的に参加しますので、皆様のご協力をお願いいたします。

*ユニバーサル・ロボットの URL

<http://www.universal-robots.com/ja/>



